

会計アドバンス演習		講義	教授 白山 真一	
科目カテゴリー	会計ファイナンスコースの 選択必修科目	科目ナンバリング	23010201	

1. 授業のねらい・概要

会計に関する基礎知識があること(例えば「会計学基礎」「会計学総論」「簿記論」を履修済であること)を前提にして、「ビジネスの言語」としての会計を学びます。本講座では大学4年次までの間に、原則として、会計に関する資格試験の受験のための基礎学力を身に付ける(具体的には、税理士試験「財務諸表論」の受験へチャレンジできるような基礎学力を身に付けるイメージ)ような授業を実施します。受講生の対象は、日商簿記検定試験2級レベルに合格またはこれからチャレンジしたいといった方を想定していますが、資格取得を目指さないという方でも高度な会計リテラシーが習得できるように配慮しますので、心配しないで受講してください。

2. 授業の進め方

テキストの内容に沿った講義形式を基本とします。なお、会計知識のインプットのみでなく、それをアウトプットできること、つまり「演習問題に回答できる力」、最終的には「資格試験などで合格できるような力」を養うことを意識した「インプット-アウトプットトレーニング」のもとに授業を実施します。

3. 授業計画

大学2年次の後期の授業は、以下のような財務諸表論の「損益会計」を中心に学習します。なお、本演習講座は大学4年次まで継続するものであり、大学3年次では「資産会計」(前期)、「資産・負債・純資産会計」(後期)、大学4年次では「特殊論点・会計理論編」(前期)、「総まとめ・試験対策」(後期)の実施を予定しています(受講生の状況によっては大学3年次、4年次の授業計画を変更する場合があります)。

1. 会計に関する資格、財務諸表論「損益会計」の概要	9. 収益認識に関する会計基準
2. 財務諸表論の全体構造	10. 工事契約会計
3. 会計準準・会計原則	11. 税金①(税金の種類、追徴、還付)
4. 概念フレームワーク①(目的、質的特性)	12. 税金②(消費税、税金に関する注記事項)
5. 概念フレームワーク②(財務諸表の構成要素)	13. 税効果会計①(概要、処理方法)
6. 財務諸表の体系、本質、作成原則	14. 税効果会計②(繰延税金資産・負債、開示)
7. 計算書類等の概要、表示科目	15. 「損益会計」のまとめ
8. 損益会計総論(対応原則、認識、測定)	

4. 準備学修(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間

毎回テキストの該当箇所を、事前に、必ず読んできて下さい(知識のインプットの準備段階:30分から1時間程度)。そのうえで授業にて解説をしていきます(知識のインプット段階)。その後、復習として指定する問題を解いていただき、知識の定着を図るようにして下さい(知識のアウトプット段階:1時間半程度)。もし不明点や疑問点があれば、授業中などに遠慮なく質問して下さい。

5. 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

定期試験の際は、解答のポイントや出題意図を試験終了後に配布します。

6. 授業における学修の到達目標

現代の会計基準や会計制度が、企業活動にどのような影響を及ぼしているかを理解することが前提となりますが、具体的には、最低限のレベルとして大学4年次修了時まで日商簿記2級合格、さらに進むことが可能な方は、大学4年生修了時点で、日商簿記1級や税理士試験「財務諸表論」などの受験にチャレンジできるような基礎学力の養成を目指します。

7. 成績評価の方法・基準

授業への取組み姿勢等 50%，定期試験の結果 50%で成績評価を行います。

8. テキスト・参考文献

テキストは、TAC 税理士講座編(2020)『みんなが欲しかった！税理士 財務諸表論の教科書&問題集1 損益計算編』TAC 出版 を使用します。本テキストは改訂される可能性がありますので、授業では最新版を使用します。参考文献は適宜紹介します。

9. 受講上の留意事項

皆さんが将来、様々な分野の実務家として、また、会計専門家として活躍するためのベースとなる会計の知識(会計リテラシー)を身につけてもらいたいと思います。各種試験の合格水準へ向けて皆さんをお手伝いしますので、是非、主体的・積極的に参加してください。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当します。本授業は、監査法人における公認会計士業務の経験及び会計専門学校における講師経験を活かして指導します。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおりです。